

第八回 荒川区区政改革懇談会

グループ討議会議録：紫苑

【日時】

1月25日（水）19：00～21：00

【場所】

荒川区役所 議員待遇者室

【次第】

ステップ1：はじめに

ステップ3：今日の話し合いの結果の確認

ステップ2：グループディスカッション

ステップ4：その他

ステップ1：はじめに

荒川区より、2月5日の最終報告会と来年度の活動に関する説明がなされた。また、コンサルタントより、最終提言(案)について説明がなされた。

ステップ2：グループディスカッション

【資料について】

- 3本柱(1.産業の再生とまちの活性化、2.高齢者が元気になるまちづくり、3.教育環境の充実)は、それぞれ関連している問題である。例えば、高齢者が元気になることで、まちの活性化にもつながる。
- 提言の文章の中で区とあるが、区行政のことなのか、区民なのか、よくわからない箇所があるので、はっきりさせた方がよい。
- 重要課題の項目が前後で合っていないところがあるので、対応させる。

【まちの活性化について】

- 3本柱の「まちの活性化」に関連することだが、再開発によるマンション建設により、新しい住民が移り住んでいる。防災面や子供の登下校などで、昔からの町会とマンションの管理組合はお互いの協力が必要だと思う。コミュニケーションがうまくいくことで、まちの活性化につながると思う。
- 日本に居住している外国人の方達と区民が、お互いに心を開いて交流できるようになれば、まちが活性化する。
- マンションはこれから増える一方だと思う。マンションの住民と昔からの住民との間で、コミュニケーションのきっかけがつかめないでいると思う。新しい住民でも一戸建ての人は町会に入りやすいが、マンションの住民は入りにくい面がある。子育て中の女性はお互いに交流があるが、男性は職種や活動の時間帯がそれぞれ違うので、交流するのは難しい面

がある。

- 人と人とのつきあいが濃いのが、下町の良さである。他区に住んでいた時には感じなかったが、荒川区に住むようになって、人間が住む所はこういう所だとつくづく思う。
- 町会を再構築することは、高齢者対策にもつながる。高齢者は、町会に入っていることで安心できる。

【少子高齢化について】

- 「取り組み方針」に「高齢者がもっと働ける環境にする」と「高齢者が積極的に社会参加できるようにする」とあるが、ここでいう高齢者はどのくらいの年代か。自分が考える高齢者のイメージはシルバー人材センターに依頼するような年代ではなく、もう少し高齢である。仕事を辞めて、これから社会・福祉活動に参加したい人のイメージである。
- 高齢者の就労だと重く感じる。社会参加の意味に捉えた方が良いのではないか。
- 4ページに課題として「少子化に対応するためには、子どもが安心して育てられる魅力ある区になる…」とあるが、「子どもが産めるまち」といった観点も重要と考える。

【「対策を実効的にするために」について】

- 11ページの「対策を実効的にするために」が非常に重要である。提言に基づいて、行政が実行に移し、区民に発表していくことが大切である。ここでは、ポイントを絞った表現で整理してほしい。
- 3ページの「財政基盤の強化・確立」の中の「いくら理想を述べても、財源的な裏付けがなければ机上の空論になってしまう」は、「財源的な裏付けが必要となる」といった表現が良いのではないか。

【その他】

- 今回の懇談会に関して、区民の意見を聞くことが、単なるガス抜きに終わり、体制に影響がなかったら意味がない。初めての試みで模索している最中だと思うが、今回の懇談会で実りあるものが一つでも出てきてほしい。
- 荒川区のがん予防センターはもっと活用できないだろうか。

ステップ3：今日の話し合いの結果の確認

今回の話し合いの結果を基に、修正案をコンサルタントと発表者で最終確認し、最終提言書を取りまとめることにした。

ステップ4：その他

【提言報告会の日程について】

日程は2月5日(日)10:00より。

以上